



第17回さくら納涼祭

前日までの雨も上がり、好天に恵まれた7月26日（水）に17回目となる「さくら納涼祭」が、午後2時よりリハビリ棟を主会場に、外来ホール、第一病棟の食堂にて行われました。

外来ホールでは、的当てバズーカ、形合せ等のゲームがあり、特に的当てバズーカは人気があり長蛇の列が出来るほどでした。

第一病棟の食堂では、ジュース等の飲み物の他、患者様から毎年「冷たい物が食べたい」との意見があり、市販のアイスクリームでは食べられない患者様もいる（乳製品が含まれている）ため、今年は職員が考案した手作りのアイスクリーム（抹茶・チョコ味）を提供し、「とても美味しかった」と喜んでいました。

リハビリ棟の主会場では、片貝町出身のシンガーソングライター 吉井ミカさんによるミニコンサートで会場が一体となって歌声を響かせていました。

また、病棟対抗歌合戦では歌以外に踊りも飛び出し会場が大いに盛り上がりました。

今年の納涼祭もたくさんの参加を頂き、無事に終了することが出来ました事を皆様に厚く感謝申し上げます。

納涼祭実行委員長（事務長） 中山 克成



小千谷さくら病院の理念

自分なり家族や友人が利用したい病院づくり

3 病棟

看護長 大谷 勉

当病棟は、神経難病を患った患者様が多く入院されている療養病棟です。

ベッド数は60床で、現在56名の方が入院しています。難病の中でもパーキンソン病の方が多く入院されており、平均年齢は72.9歳です。経管栄養をしている方が33名、人工呼吸器をつけた方が4名と、病状の進行に合わせたケアを行っています。

スタッフは看護師22名、介護福祉士12名、看護助手2名です。病棟の目標は、「患者家族のニーズに添った、安全で安心な心地よい療養環境を提供するため、専門性を活かした倫理に基づく看護介護を実践する」としています。在宅にいる時のような療養生活は提供できませんが、患者様・ご家族様とコミュニケーションを良くし、できる限りその人に合った療養生活を提供していこうと日々頑張っています。患者様とカラオケをしたり、塗り絵や将棋など、レクリエーションに取り組んでいます。また、自分で動けない方にも、病室や廊下、お風呂場などに飾りつけをして目で楽しめるよう、いろいろ工夫しています。そして、病棟の外には野菜や花を育て、患者様にも成長具合を見てもらっています。夏はトウモロコシやミニトマトなど、秋にはサツマイモを収穫して患者・家族とスタッフでおいしくいただいています。

今年度から、朝の始業前にラジオ体操をしています。小学生の頃はあまり・・・でしたが、やってみると意外と気持ちのいいものです。最近は患者様数名の参加もあり、一緒に体操をして一日をスタートさせています。3病棟は若いスタッフが多く、まだまだ未熟な面もありますが、そこは明るく元気にカバーしていきたいと思えます。



梅ジュース作りに挑戦！

今年も梅仕事を患者様と集団で行いました。今年は梅ジュース作りに挑戦しました。あらかじめ梅を冷凍させておき、冷凍梅を使いました。梅を測る、氷砂糖を入れる、梅を入れる、酢を入れる、とそれぞれ作業を分担して行いました。



梅仕事は皆様私達より大ベテラン！「氷砂糖と梅は交互に入れなきゃ！」、「蓋の締め方がそんなんじゃダメだ！」、「涼しげでいいねえ♪」等、皆様各々ああでもないこうでもない賑やかに、スタッフは患者様に色々と教わりながら、行いました。梅の話から季節、料理等、様々な話がポンポン飛び交い、楽しい梅仕事の時間でした。患者様の手さばきや会話の様子から、その方が今まで過ごしてきた歴史のような、証のような深いものを感じられた気がします。より一層患者様の気持ち・背景に触れることができ、嬉しかったです。普段の患者様とのリハビリに活かしていけたらと思います。それにしても、私もまだまだ料理は初心者だと痛感致しました…（苦笑）。



今回は梅と氷砂糖のジュースと、梅と氷砂糖と酢のジュースを作りました。見た目が爽やかで、砂糖が溶けていく過程が見れていいですね。今後の仕上がりが楽しみです！

リハビリテーション室 作業療法士 種岡 靖子

おいしく食事を食べていただく為に・・・

食べる事は、入院生活で最も楽しみな事です♪

今日は、当病院の食事と食べる機能を取り戻す取り組みについて紹介したいと思います。食事については、まず患者さんの食べる力に応じて食事形態が決まります。歯があり、噛む力・飲み込む力がある方は常食。噛む力が少し弱い方は軟菜食。飲み込む力があっても噛めない方は刻み食。飲み込む力が低下された方はミキサー食と基本的には4形態あります。そして、患者さんの病態・体型・嗜好・食べきれぬ量等も考慮し、食事内容は決定します。次に食べる機能を取り戻す取り組みについてです。現在経管栄養でお食事されている方も、状況次第で飲み込みの検査を行い、問題ない事が確認されますと、無理をさせない内容から、食事再開となります。その後は、食事量・食事回数・食事内容が今より良くなるよう、食べる訓練・姿勢が保持できる訓練等も取り入れながら、経過を見ていきます。これらの取り組みによって食べられるようになった方は、ほぼ寝たきりの生活から、今や献立表をチェックし、自分から先回りしニーズを訴えられるまでに変化されました。よく眠れ、しっかり食べるようになった事で、表情も明るくなったように感じます。

今後も患者さんが少しでも快適な療養生活が送れ、そしておいしく食事を食べていただけるよう取り組んでいきたいと思ひます。

栄養課 管理栄養士 内山 奈々

当院の食事（スペシャル献立より）



【食べる機能に問題の無い方のお食事】



【飲み込む力が低下された方のお食事】

職場体験学習受入

明るくハキハキと気持ちの良い挨拶が印象的な吉岡さん。

自身の入院体験で看護師の仕事に興味を持ち、小千谷さくら病院に職場体験に来てくれました。

実習中、吉岡さんが患者さんの側に行くだけで患者さんが笑顔になり、自然と患者さんの目線に合わせて会話ができていました。最終日には、納涼祭にも参加し、「働くことは大変だけど、スタッフが患者さんに接する対応や患者さんが楽しそうにしている表情を見て、病院で働いてみたい。」と言ってくれ、嬉しく思いました。



今後の進路を決める時は今回の体験を活かしてほしいと思いました。

3日間お疲れ様でした。

1病棟 看護師 柴木 奈緒美

長岡福祉協会 バレーボール大会

6月13日、年に1回の交友会によるバレーボール大会がありました。小千谷さくら病院にはスポーツマンが多く、2チームが結成され、大会に挑みました。経験者もいれば未経験者も多数いる中で、今回の目標は1・2フィニッシュ！その日のために時間を調整して集まって練習をしたり、本番さながらの練習試合も行ってきました。

本番当日、全体で12チームのAブロックBブロックに分かれて試合が行われました。私達さくら病院はお揃いのTシャツでやる気満々！各チームに分かれて試合が始まり、終わってみると、結果は両チーム3位！決勝リーグには両チームとも進みましたが、あと1歩及ばず…勝てそうだった試合内容ただだけに、悔しさが次への意欲に繋がりました。

普段の仕事で他病棟のスタッフとこんなにコミュニケーションをとれる機会も少ないので、笑いあり新しい発見もありの楽しい大会になりました！患者様、スタッフからも応援の声を沢山頂き、とても励みになりました。また来年もあるので、和気あいあいと楽しく行なえるバレーボールに、興味のある人は是非一緒に出てみませんか？来年も頑張るぞー！！



3病棟 介護福祉士 木村 陽香

編集後記

スポーツの秋、食欲の秋、読書の秋、皆様はどの秋がお好きですか？私は何といっても食欲の秋です♪当院の周りでは、柿、栗、イチジクが実を膨らませ実りの秋を迎えています。栗を拾う患者様の目が輝いています。収穫は嬉しいものですね。

朝晩寒くなってきましたが、体調を崩さないようお体に気を付けてお過ごしください。(篠田 記)



社会福祉法人長岡福祉協会
小千谷さくら病院

〒947-0041 新潟県小千谷市小栗田2732番地
電話(代表) 0258-83-2680
FAX 0258-83-4416
URL <http://www.sakurahp.com>
E-mail info-01@sakurahp.com
広報委員 中山 克成・原 智史・篠田 由江
下村 健・種岡 靖子・伊佐 純子